

ろくあみだ 六阿弥陀伝説を描く

所在地：扇 2-19-3 性翁寺

(毎年秋に開催される東京都主催「東京文化財ウィーク」
期間中に1日限定で公開されます)



紙本着色性翁寺縁起絵

性翁寺(浄土宗)は、女性の幸せを祈る女性往生の寺として知られ、本尊は通称「木余り如来」として有名です。そしてその由来は、江戸時代に広まった六阿弥陀伝説と深く関係しています。

性翁寺に伝わる六阿弥陀伝説とは、次のようなものです※。むかし、現在の江北地域の領主だった宮城宰相の一人娘である足立姫が荒川の対岸の一族である豊嶋氏に嫁ぎました。足立姫は、引き出物が少なかったことを恨んだ姑のいじめに苦しみ、神亀2年(725)に12人の侍女と共に荒川へ身を投げ死んでしまいました。宮城宰相は、娘と侍女の菩提を弔うため、ちょうど当地に来訪していた行基菩薩に依頼し、一本の木から六体の仏を作ってもらいました。行基菩薩は、木の余った部分からさらにもう一体の仏像を作りました。この仏像こそ、性翁寺の本尊と伝わる「木余り如来」で、東京都の指定文化財となっています。

縁起絵は、こうした六阿弥陀伝説を信徒へ説明するため作成されたもので、江戸時代から明治時代にかけて作られたと考えられています。足立区の伝説を物語る貴重な文化財です。

※六阿弥陀伝説は、人名や内容に様々な種類があります

文化財豆知識 足立姫の墓と板碑

性翁寺には、足立姫のものとして伝わる墓があります。この墓は、現在、風雨から守る小さな堂で保護されています。堂の中にあるのは、永禄13年(1570)につくられた板碑です。板碑は石でできた卒塔婆で、死んだ人を供養するためにつくられたものです。江戸時代に足立姫の墓として世に知られるようになり、現代にいたるまで大切にされています。



足立姫の墓